

# Advance

## # 7年生、挑戦のシーズンに向かって

クォーター間休みを経て、いよいよ2Qがスタートしました。再会した7年生たちは、どこか少し背筋が伸びたような、けれど変わらず温かい雰囲気、元気いっぱいSOLANに戻ってきました。この5日間だけでも、教室の中に広がる前向きなエネルギーに、何度も心を動かされました。

さて、2Qは、さまざまな行事や対外的な挑戦が多くある期間となります。各教科のコンテストやコンクール、9月釧路宿泊学習、そして、プロジェクト、個人探究、委員会も一段と「本番モード」へと進んでいきます。子どもたちにとって自分の力を試すチャンスが次々にやってくる時期です。

そんな7年生に、2つのエピソードを紹介します。

1つ目は、アメリカの公民権運動家、ローザ・パークスさんの言葉です。

「成功とは、最初の一步を踏み出す勇気だ。」

1955年、アラバマ州モンゴメリーのバスで、パークスさんは白人に席を譲るよう求められましたが、それを静かに拒否しました。その小さな「ノー」が、やがて全米を巻き込む人権運動の大きなうねりを生み出しました。

彼女の行動は、とても静かで目立たないものでしたが、その「最初の一步」が世界を変えるきっかけになったのです。

そしてもう1つは、日本のプロ野球界を代表するイチロー選手の、小学6年生のときの作文です。彼は「将来の夢」というテーマで、次のように書いています。

「ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのために、毎日練習をしています。」

当時から具体的に、どんな練習をし、どう努力を積み重ねているのかを詳しく丁寧に書き記していたイチロー選手は、夢を語るだけでなく、「今の自分が何をしているか」「これからどうするか」を真剣に考えていたのです。この作文のすごさは、プロになったから価値があるのではなく、「未来の自分を信じて、今の一步に意味を見出している」ところにあります。

7年生の子どもたちも、今まさに、自分なりの「最初の一步」を踏み出そうとしています。プレゼンが不安な子が、人前で話そうとしている。レポートを書くのが苦手な子が、論文を書くことに挑戦してみようとしている。あるいは、グループ活動でいつもは黙っている子が、初めて意見を言ってみようという勇気を出している。それらすべてが、大人になったときに「自分が変わり始めた...」と思える、大切なスタートラインになるのです。

この時期に必要なのは、完璧さではありません。大きな成果よりも、「挑戦してみた」「少しでもやってみようとした」その経験が、子どもたちを内側から育てていきます。

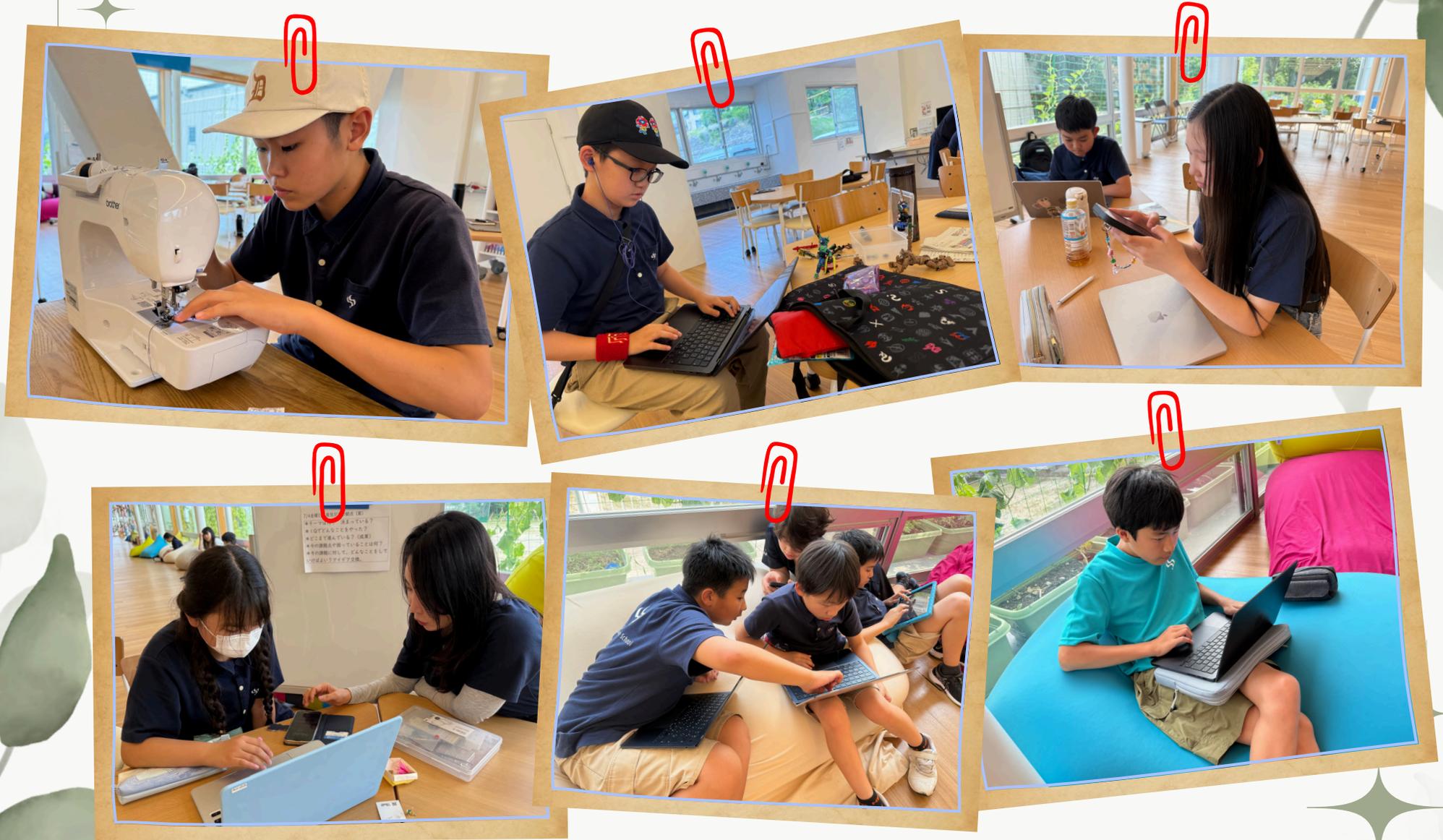
私たちスタッフも、子どもたちの小さな一步に気づき、拍手を送り、時にはそっと背中を押す存在でありたいと思っています。

2Qはまさに7年生の「真価が問われる」時期かもしれません。けれど、その真価とは、点数や順位ではなく、「どれだけ自分を試しにいけるか」「仲間と支え合えるか」だと、私たちは信じています。

保護者の皆様、フルスイングで挑む7年生の子どもたちの背中を、ともに見守っていきましょう。

**We will value "Purpose" and "Ownership" for you**

# Advance # 2Q 探究 はじまりました



**We will value "Purpose" and "Ownership" for you**